

## 偏微分と中心差分法

### ・偏微分

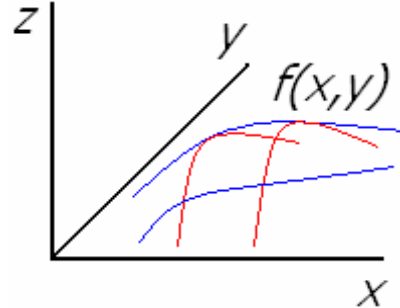
$$\text{偏導関数 } f_x(x, y) = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x + \Delta x, y) - f(x, y)}{\Delta x}$$

$$\frac{\partial z}{\partial x} = \frac{\partial f(x, y)}{\partial x} = f_x(x, y) \quad (z \text{ の } x \text{ による偏微分})$$

は  $y$  の値を固定して、 $x$  方向について微分したものである。更に、この  $f_x(x, y)$  を  $x$  方向について微分

したものは  $f_{xx}(x, y) = \frac{\partial^2 z}{\partial x^2}$ ,  $y$  方向について微分したものは  $f_{yx}(x, y) = \frac{\partial^2 z}{\partial y \partial x}$  と表す。

物理学では、位置座標  $(x, y, z)$  の各点に定義される物理量 [例えば温度  $T(x, y, z)$ ] を扱うので、一般的には偏微分方程式を解く必要がある。



### ・中心差分法

二階の偏導関数は  $f_{xx}(x, y) = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f_x(x + \Delta x, y) - f_x(x, y)}{\Delta x}$  であるが、これに

$$f_x(x, y) = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x - \Delta x, y) - f(x, y)}{-\Delta x} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x, y) - f(x - \Delta x, y)}{\Delta x} \text{ を代入すると,}$$

$$f_{xx}(x, y) = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x + \Delta x, y) - 2f(x, y) + f(x - \Delta x, y)}{(\Delta x)^2} \text{ と表せるので, この近似値を差分}$$

$$\text{で表すと, } f_{xx}(x, y) \cong \frac{f(x + \Delta x, y) - 2f(x, y) + f(x - \Delta x, y)}{(\Delta x)^2} \text{ となる。}$$

### 例題

図のような細長い棒の全体の温度を均一に  $0^\circ\text{C}$  としておき、時刻  $t = 0$  のとき、その一端を  $100^\circ\text{C}$  のお湯に接触させ、他端を  $0^\circ\text{C}$  の氷に接触させる。このとき、棒の各点、各時刻の温度  $u(x, t)$  は、温度伝導率を  $\kappa$  とすると、熱伝導



方程式  $\frac{\partial u(x, t)}{\partial t} = \kappa \frac{\partial^2 u(x, t)}{\partial x^2}$  を解いて得られる。初期条件を  $u(x, 0) = 0$  ( $x \neq 0$ )、境界条件

を  $u(0, t) = 100$ ,  $u(1, t) = 0$ , 温度伝導率を  $\kappa = 3.0 \times 10^{-5} \text{ m}^2/\text{s}$  として、棒の各点、各時刻の温度を求める C プログラムを作成し、翻訳編集して実行する。

【解法】 区間  $0 \leq x \leq 1$  を  $M$  等分し、端点及び分点を  $x_0, x_1, \dots, x_M$  とする。ここで、 $x_0 = 0$ ,  $x_M = 1$ ,  $\Delta x = 1/M$  である。時間は  $0 \leq t \leq T$  まで計算するとして、この区間を同様に  $N$  等

分する。  $u(x_m, t_n) = u(m\Delta x, n\Delta t)$  の値を  $u_{m,n}$  とする。時間による偏微分をオイラー法で近

似し、位置座標による 2 階の偏微分を中心差分法で近似すると、熱伝導方程式は

$$\frac{1}{\Delta t}(u_{m,n+1} - u_{m,n}) = \frac{\kappa}{(\Delta x)^2}(u_{m+1,n} - 2u_{m,n} + u_{m-1,n}) \text{ となる。これを } u_{m,n+1} \text{ について解くと,}$$

$$u_{m,n+1} = (1 - 2\alpha u_{m,n}) + \alpha(u_{m+1,n} + u_{m-1,n}) \text{ となる。ここで, } \alpha = \frac{\kappa\Delta t}{(\Delta x)^2} \text{ である。}$$

\*この場合に、差分法による近似は、 $\alpha \leq \frac{1}{2}$  のとき安定であることが知られている。

ex5-1.c

```
#include <stdio.h>

#define M 100
#define N 100
#define T 120.0
#define K 3.0e-5

int main(void)
{
    int m, n;
    double u[M+1][N+1], dt, dx, a;
    FILE *output;

    dt=T/N;
    dx=1.0/M;
    a=K*dt/(dx*dx);

    output=fopen("heat.data", "w");

    for (m=1; m<=M; m++) {
        u[m][0]=0.0;
    }

    for (n=0; n<=N; n++) {
        u[0][n]=100.0;
        u[M][n]=0.0;
    }

    for (n=0; n<N; n++) {
        for (m=1; m<M; m++) {
            u[m][n+1]=(1-2*a)*u[m][n]+a*(u[m+1][n]+u[m-1][n]);
        }
    }
}
```

## 自然科学シミュレーション ノート

```
for (n=0;n<=N;n++) {
    for (m=0;m<=M;m++) {
        fprintf(output, "%f %E %f\n", dx*m, dt*n, u[m][n]);
    }
    fprintf(output, "\n");
}

fclose(output);

return 0;
}
```